

令和3年度使用
中学校用教科用図書
採択参考資料

美 術

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
9 開隆堂	美術 701・801
38 光村	美術 702・802
116 日文	美術 703・803・804

美 術

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

9 開隆堂 38 光村 116 日文

2 調査研究の観点

- (1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。
 - (2) 個性を生かして活動することができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
 - (3) 「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
 - (4) 表記や表現が適切であり、各ページの資料や紙面のデザイン等が学習意欲を喚起するよう配慮されているか。
- ### 3 調査研究に対する基本的な考え方
- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
 - (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
 - (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
 - (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

- 1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。
- 2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。
- 3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。
 - (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)(4)
 - ① 領域別のページ構成
 - ② 領域別の題材数
 - ③ 学年のまとめりごとの題材数
 - ④ 掲載作品の構成
 - (2) 学習指導要領に関すること…………… 観点(1)
 - (3) 生徒の実態や地域の実情に関すること…………… 観点(2)
 - (4) 内容の構成・配列に関すること…………… 観点(3)
 - (5) 表記や表現、資料等に関すること…………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

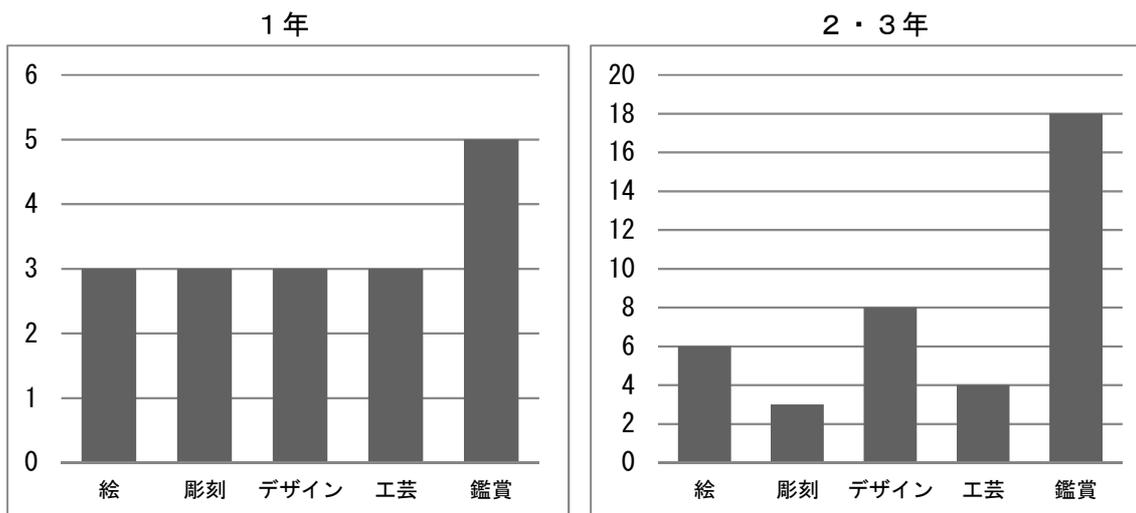
(1) 領域別のページ構成

	絵	彫刻	デザイン	工芸	鑑賞	材料 技法	その他	合 計
1年	6	8	6	6	14	10	18	68
2・3年	16	6	16	8	46	8	24	124
合計	22	14	22	14	60	18	42	192

(2) 領域別の題材数

	絵	彫刻	デザイン	工芸	鑑賞	合 計
1年	3	3	3	3	5	17
2・3年	6	3	8	4	18	39
合計	9	6	11	7	23	56

(3) 学年のまとめりごとの題材数



(4) 掲載作品の構成

	生徒 作品	作家の作品		文化・文化財		伝統 工芸	大型 図版※	合 計
		日本	世界	日本	世界			
1年	65	50	15	7	5	2	(1)	144
2・3年	89	138	96	30	22	10	(2)	385
合計	154	188	111	37	27	12	(3)	529

※大型図版とは、A3版程度の図版のことで、その数は合計には含まない。

2 学習指導要領に関すること

- 生徒の意欲を引き出す題材名が示されている。
- 各題材では、資質・能力の3つの柱に基づいた「目標」が示されており、活動全体を通して3つの資質・能力を意識して学習することができるようになっている。
- 各題材では、学習を深めるための「学習のポイント」が示されている。
- 巻頭に、図画工作と美術科のつながりや美術科を学ぶ意義について、生徒向けの言葉で示されている。また、美術科の学びと生活との関連について紹介されている。
- 巻末に、技法や色彩、鑑賞につながる資料「学びの資料」があり、3年間を通じて、色彩に関する知識や様々な技法が学習できるように構成されている。
- 第1学年が3年間の見通しを持って学習に取り組めるように、美術1において、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの分野で学習する内容について、紹介するページが設定されている。

3 生徒の実態や地域の実情に関すること

- 生徒の活動の様子や作品が示されている。また、「作者の言葉」で作者の作品への思いが紹介されている。
- 伝統文化・伝統工芸等について、生徒が実際に伝統技法を使った題材で活動している事例や作品が紹介されている。
- 生徒にとって身近なテーマを取り上げ、美術の学習が社会とつながっていることに着目させる内容になっている。
- 生徒の実態や学校の実情に応じて活動を選択できるように、複数の実践例を紹介した題材が掲載されている。
- 題材に応じて、注意点がマークで示されており、用具を使用する際の安全面での配慮事項が掲載されている。

4 内容の構成・配列に関すること

- 題材が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つに分類され、更にそれぞれが「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に分けて示されている。
- 鑑賞に関する資質・能力を高めるために、各領域で複数の鑑賞の題材が設定されている。
- 日本及び世界の美術文化の多様性に目を向けさせるために、日本及び諸外国の作品が幅広く取り上げられている。
- 作品の細部まで観察できるように大きな図版や原寸大の図版、作品の一部を拡大した図版が掲載されており、鑑賞の手立てや生徒の表現活動につながる内容が紹介されている。
- 諸外国の生徒作品が掲載されており、国際理解について考える機会が与えられている。
- 他教科との関連がある題材に、教科名や単元名が示されている。

5 表記や表現、資料等に関すること

- 生徒が活動する様子やその表情が分かる写真が使用されている。
- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 題材のリード文に具体的な活動の方向性が示されている。
- 内容に関連する美術用語の解説が、「美術用語」のマークと共に掲載されている。
- 学習を深めるための動画や画像などにリンクするQRコードが掲載されている。
- 教科書の判型はA4ワイド判が使用されている。

1 概括的な調査研究

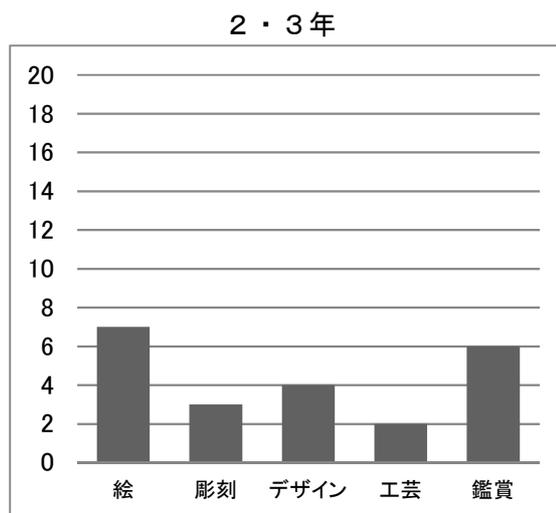
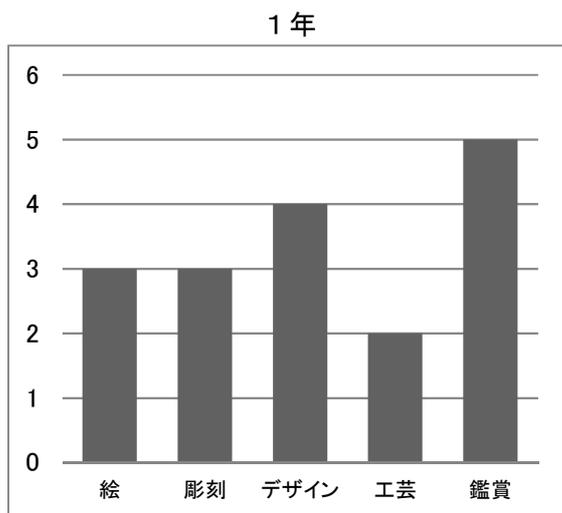
(1) 領域別のページ構成

	絵	彫刻	デザイン	工芸	鑑賞	材料 技法	その他	合 計
1年	10	6	12	4	16	23	11	82
2・3年	18	6	12	4	30	12	24	106
合計	28	12	24	8	46	35	35	188

(2) 領域別の題材数

	絵	彫刻	デザイン	工芸	鑑賞	合 計
1年	3	3	4	2	5	17
2・3年	7	3	4	2	6	22
合計	10	6	8	4	11	39

(3) 学年のまとめりごとの題材数



(4) 掲載作品の構成

	生徒 作品	作家の作品		文化・文化財		伝統 工芸	大型 図版※	合 計
		日本	世界	日本	世界			
1年	61	42	29	5	9	3	(1)	149
2・3年	65	82	84	45	13	49	(4)	338
合計	126	124	113	50	22	52	(5)	487

※大型図版とは、A3版程度の図版のことで、その数は合計には含まない。

2 学習指導要領に関すること

- 生徒の意欲を引き出す題材名が示されている。
- 各題材では、「目標」が示されており、その題材で身につける資質・能力を意識して学習することができるようになっている。
- 表現中心の各題材では、学習を深めるための鑑賞作品と、対話につながる問いが示されている。
- 巻頭に、図画工作と美術科のつながりや美術科を学ぶ意義について、生徒向けの言葉で示されている。また、美術科の学びと生活との関連について紹介されている。
- 巻末に、技法や色彩、鑑賞につながる資料「学習を支える資料」があり、3年間を通じて、色彩に関する知識や様々な技法が学習できるように構成されている。
- 第1学年が3年間の見通しを持って学習に取り組めるように、美術1において、美術で学習する内容について、紹介するページが設定されている。

3 生徒の実態や地域の実情に関すること

- 生徒の活動の様子や作品が示されている。また、「作者の言葉」で作者の作品への思いが紹介されている。
- 伝統文化・伝統工芸等について、生徒が実際に伝統技法を使った題材で活動している事例が紹介されている。
- 生徒にとって身近なテーマを取り上げ、美術の学習が社会とつながっていることに着目させる内容になっている。
- 生徒の実態や学校の実情に応じて活動を選択できるように、複数の実践例や製作過程を紹介した題材が掲載されている。
- 題材に応じて、注意点がマークで示されており、用具を使用する際の安全面での配慮事項が掲載されている。

4 内容の構成・配列に関すること

- 題材が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つに分類され、更にそれぞれが「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に分けて示されている。
- 鑑賞に関する資質・能力を高めるために、各領域で複数の鑑賞の題材が設定されている。
- 日本及び世界の美術文化の多様性に目を向けさせるために、日本及び諸外国の作品が幅広く取り上げられている。
- 作品の細部まで観察できるように大きな図版や原寸大の図版、作品の一部を拡大した図版が掲載されており、鑑賞の手立てや生徒の表現活動につながる内容が紹介されている。
- 諸外国の生徒作品が掲載されており、国際理解について考える機会が与えられている。
- 道徳との関連がある題材に、「道徳化とのつながり」で関連する内容項目が示されている。また、他教科とのつながりについて紹介するコラムが掲載されている。

5 表記や表現、資料等に関すること

- 生徒が活動する様子やその表情が分かる写真が使用されている。
- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 題材のリード文に具体的な活動の方向性が示されている。
- レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」について、書き込みができるトレーシングペーパーが綴じ込まれている。また、「鳥獣人物戯画」や木版画の作品が掲載されているページには、材質の違う紙が使われている。
- 学習を深めるための動画や画像などにリンクするQRコードが掲載されている。
- 教科書の判型はA4判が使用されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別のページ構成

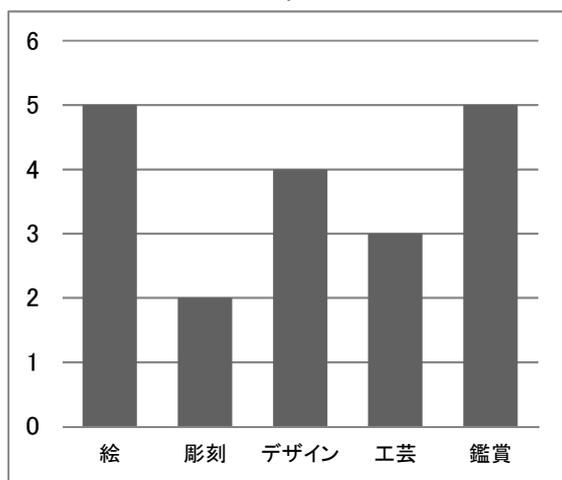
	絵	彫刻	デザイン	工芸	鑑賞	材料技法	その他	合計
1年	10	4	8	6	14	7	26	75
2・3年上	8	4	6	6	16	3	22	65
2・3年下	12	2	6	6	10	2	23	61
合計	30	10	20	18	40	12	71	201

(2) 領域別の題材数

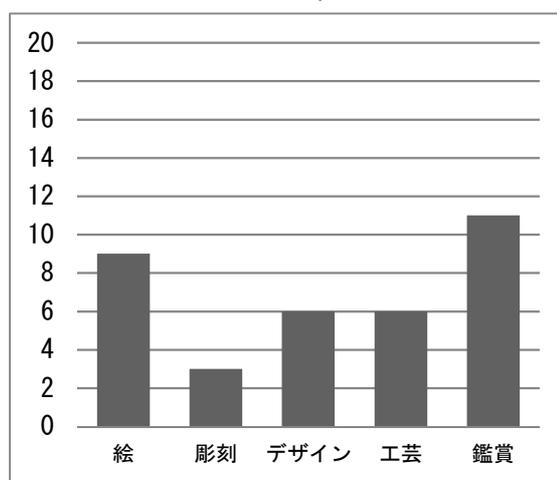
	絵	彫刻	デザイン	工芸	鑑賞	合計
1年	5	2	4	3	5	19
2・3年上	4	2	3	3	6	18
2・3年下	5	1	3	3	5	17
合計	14	5	10	9	16	54

(3) 学年のまとめりごとの題材数

1年



2・3年



(4) 掲載作品の構成

	生徒作品	作家の作品		文化・文化財		伝統工芸	大型図版※	合計
		日本	世界	日本	世界			
1年	95	51	19	8	6	2	(3)	181
2・3年上	58	74	46	12	7	0	(2)	197
2・3年下	62	24	45	25	2	17	(3)	175
合計	215	149	110	45	15	19	(8)	553

※大型図版とは、A3版程度の図版のことで、その数は合計には含まない。

2 学習指導要領に関すること

- 生徒の意欲を引き出す題材名とともに、題材の目標が短い一文で示されている。
- 各題材では、資質・能力の3つの柱に基づいた「学びの目標」が示されており、活動全体を通して3つの資質・能力を意識して学習することができるようになっている。
- 各題材の「造形的な視点」では、造形的な見方・考え方を働かせるためのきっかけとなる問いが示されている。
- 巻頭に、図画工作と美術科のつながりや美術科を学ぶ意義について、生徒向けの言葉で示されている。また、美術科の学びと生活との関連について紹介されている。
- 巻末に、技法や色彩、鑑賞につながる「学びを支える資料」があり、3年間を通じて、色彩に関する知識や様々な技法が学習できるように構成されている。
- 第1学年が3年間の見通しを持って学習に取り組めるように、美術1において、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの分野で学習する内容について、紹介するページが設定されている。

3 生徒の実態や地域の実情に関すること

- 生徒の活動の様子や作品が示されている。また、「作者の言葉」で作者の作品への思いが紹介されている。
- 伝統文化・伝統工芸等について、生徒が実際に伝統技法を使った題材で活動している事例が紹介されている。
- 生徒にとって身近なテーマを取り上げ、美術の学習が社会とつながっていることに着目させる内容になっている。
- 生徒の実態や学校の実情に応じて活動を選択できるように、複数の実践例を紹介した題材が掲載されている。
- 題材に応じて、「注意しよう」が示されており、用具を使用する際の安全面での配慮事項が掲載されている。

4 内容の構成・配列に関すること

- 題材が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つに分類され、更にそれぞれが「表現や鑑賞する活動の題材」と「鑑賞する活動を主とした題材」に分けて示されている。
- 鑑賞に関する資質・能力を高めるために、各領域で複数の鑑賞の題材が設定されている。
- 日本及び世界の美術文化の多様性に目を向けさせるために、日本及び諸外国の作品が幅広く取り上げられている。
- 作品の細部まで観察できるように大きな図版や原寸大の図版、作品の一部を拡大した図版が掲載されており、鑑賞の手立てや生徒の表現活動につながる内容が紹介されている。
- 諸外国の生徒作品が掲載されており、国際理解について考える機会が与えられている。
- 道徳との関連がある題材に、マークが示されている。

5 表記や表現、資料等に関すること

- 生徒が活動する様子やその表情が分かる写真が使用されている。
- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 題材のリード文に具体的な活動の方向性が示されている。
- 尾形光琳の「燕子花図」と俵屋宗達の「風神雷神図屏風」の2つの屏風作品について、実際に折って立てた状態で鑑賞できるように造本されている。
- 学習を深めるための動画や画像などにリンクするQRコードが掲載されている。
- 教科書の判型はA4ワイド判が使用されている。また、2・3年は上下巻の分冊になっている。

